

住警器ユーザーに対する「意識調査」

1 意識調査の概要

設置から10年を経過した住警器を設置している住宅の居住者（38世帯）に対して住警器の作動状況や維持管理状況などに関する「意識調査」を実施しました。

2 意識調査の結果

(1) 住警器の作動状況

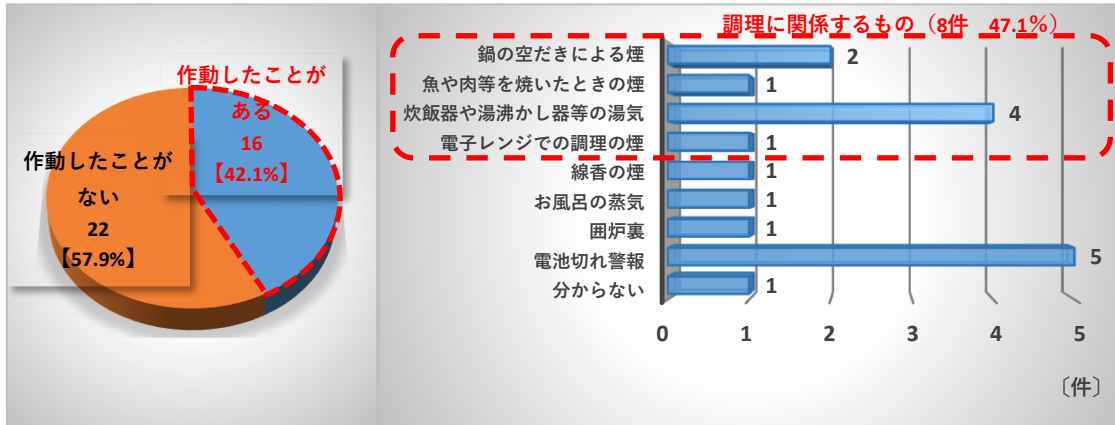


図1-1 住警器の作動有無 (n=38) 図1-2 住警器が作動した原因 (n=17・複数回答含む)

- 住警器の作動の有無については、42.1%の人が「作動したことがある」と回答しています。
- 作動した原因の約47.1%は調理に関係するものでした。

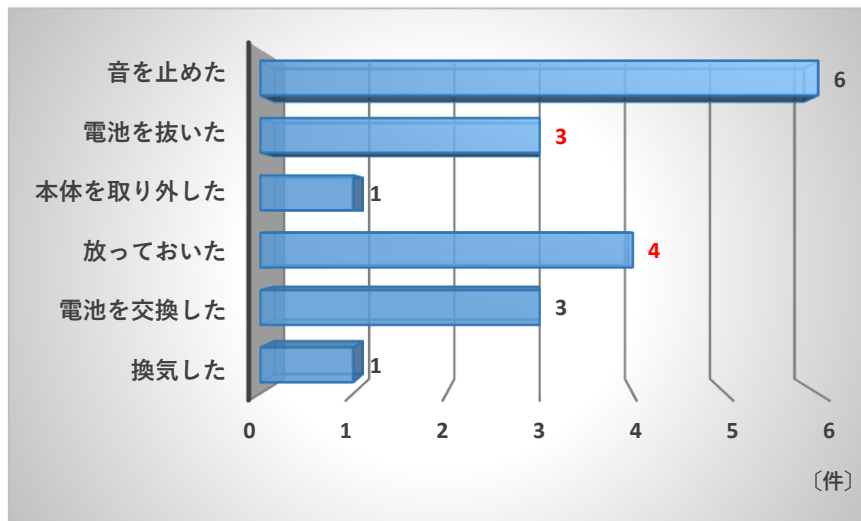


図2 作動時の対処状況 (n=18・複数回答含む)

- 作動したことがあると回答した人の作動時の対処方法については、「電池を抜いた」が3件、「音の止め方が分からず放っておいた」が4件ありました。
- 作動したことがあると回答したすべての回答者が「作動時にどこにも連絡していない」との回答でした。

(2) 住警器の維持管理状況

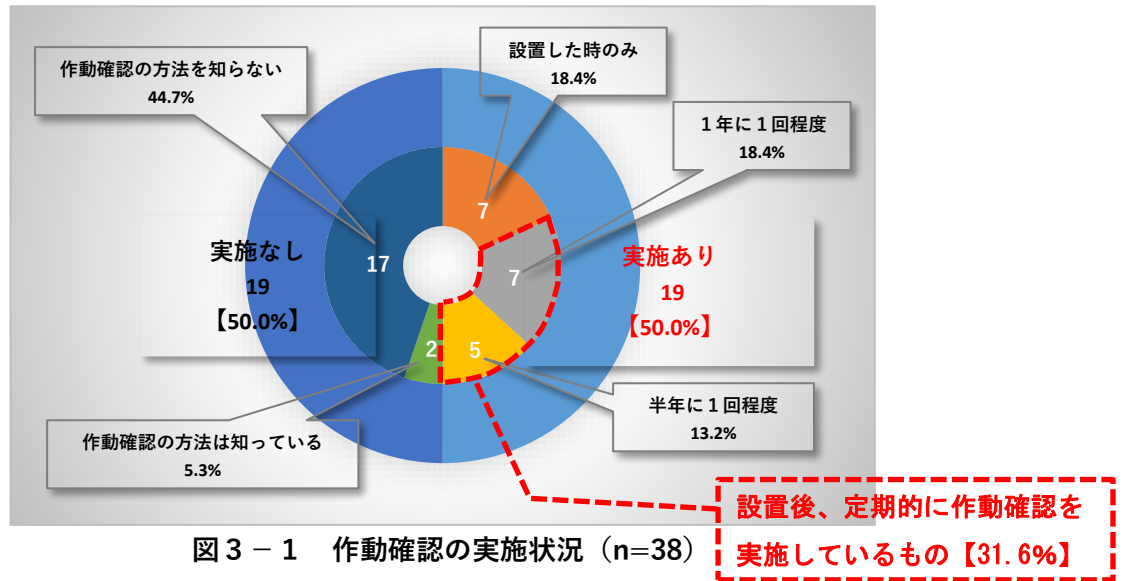


図3-1 作動確認の実施状況 (n=38)

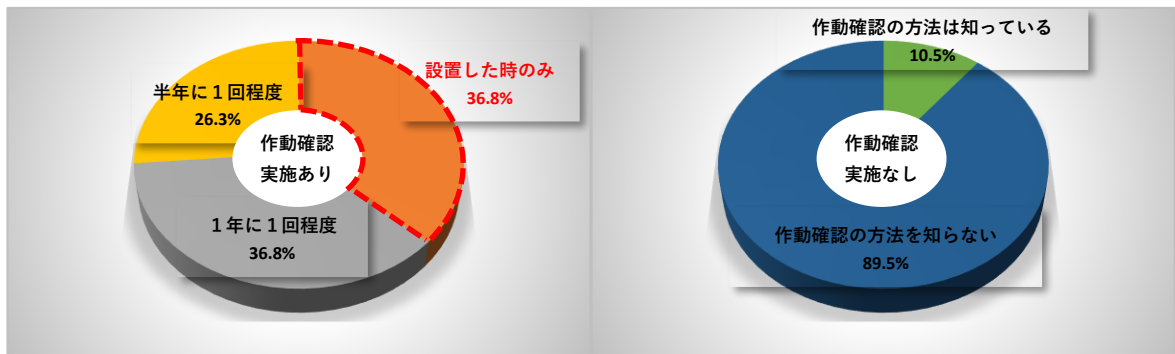


図3-2 作動確認の実施状況 (実施あり) (n=19)

図3-3 作動確認の実施状況 (実施なし) (n=19)

- 作動確認の実施有無については、「ある」と回答した人の割合は50.0%でした。
- 作動確認の実施頻度については、「設置した時のみ」と回答した人が36.8% (全体の18.4%) を占めました。
- 住警器を設置後、定期的に作動確認を実施していた人は31.6%に止まっています。

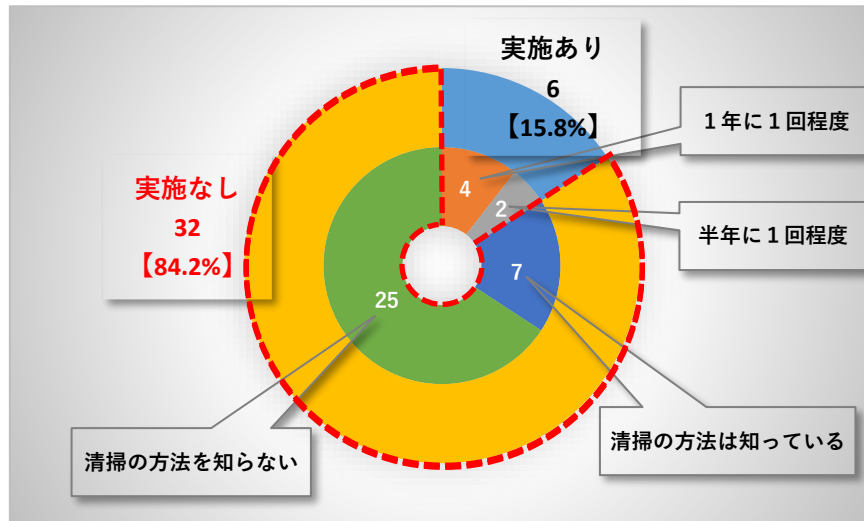


図4-1 機器清掃の実施状況 (n=38)

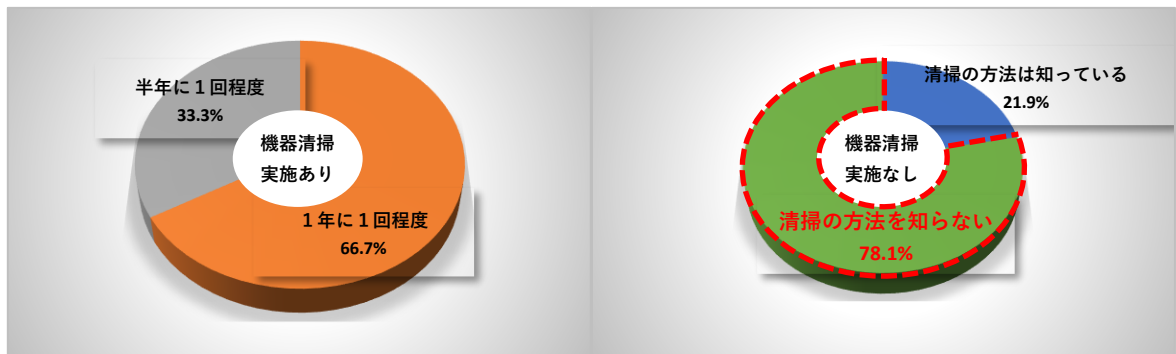


図4-2 機器清掃の実施状況 (実施あり) (n=6)

図4-3 機器清掃の実施状況 (実施なし) (n=32)

- 機器の清掃状況については、「実施したことがない」と回答した人が 84.2% でした。
- 機器の清掃を実施したことがないと回答した人の清掃の方法の認知度については、78.1%の人が「清掃の方法を知らない」と回答しています。

(3) 回収住警器の作動確認結果

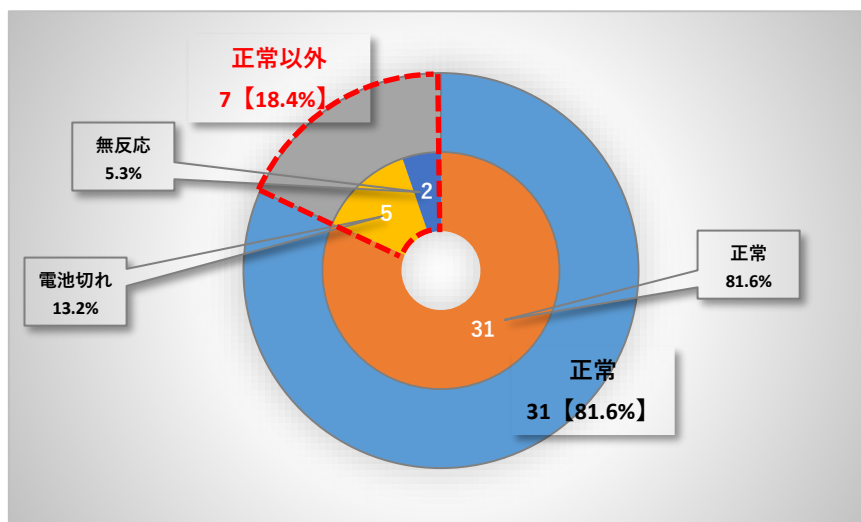


図5 回収住警器の作動確認結果 (n=38)

- 設置されている住警器の作動確認を行ったところ、81.6%が「正常」の状態でした。
- 「電池切れ警報音が鳴る」や「無反応（電池が切れて反応しない状態）」といった「正常以外」の状態であったものは、18.4%ありました。

(4) 住警器に求める付加機能

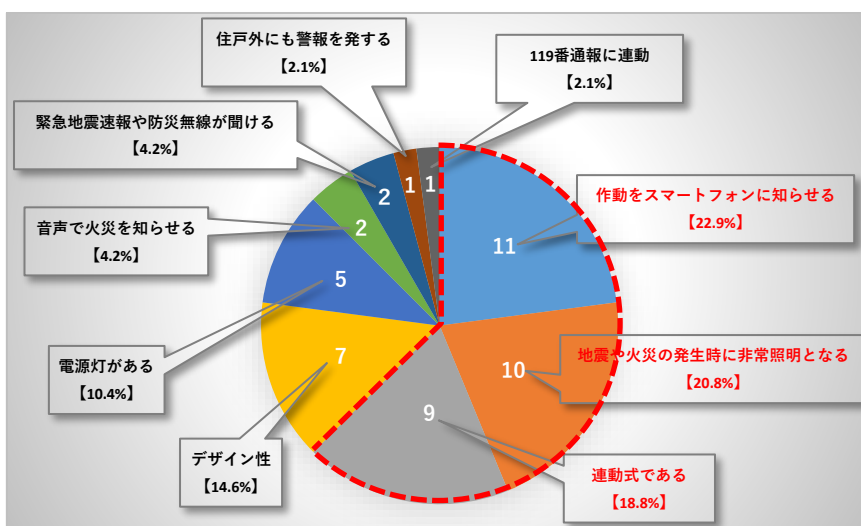


図6 住警器に求める付加機能 (n=48・複数回答含む)

- 住警器に求める付加機能については、「外出時にも火災の発生や機器の異常が分かるようなスマートフォンとの連携機能 (22.9%)」、「火災時に避難をサポートする照明機能 (20.8%)」、「火災の早期発見に効果的な連動機能 (18.8%)」の3つの付加機能で6割以上を占めました。

(5) その他住警器に関する意見について

その他住警器に関し、次のような意見が挙がりました。

- 「ベース固定用のネジのピッチ幅を各社統一してほしい。」
- 「定期点検実施のお知らせ機能があれば良い。」
- 「連動型の場合、親器と子器の違いが分からない。」
- 「リチウム電池のフィルムを剥がしてしまった。もっと分かりやすく注意喚起してほしい。」
- 「説明書の文字が全体的に小さくシニアには取付けが難しい。」
- 「天井が柔らかい素材だとネジが取れやすくて設置しづらい。」
- 「なるべく低い位置に設置されている方が手入れがしやすい。」

3 まとめ

- 住警器の作動を約4割の人が経験しており、その原因の半数近くが調理に関するものでした。
- 作動確認を一度も行ったことがない人が半数を占めていました。
- 住警器を設置してから定期的に作動確認を行っていた人は3割程度で、約7割の人が定期的な点検を行っていませんでした。
- 住警器を設置してから一度も機器の清掃を行っていない人が8割を超え、その大多数が清掃方法を知りませんでした。
- 約2割の世帯で、設置されている住警器のいずれかが「電池切れ警報が鳴る」や「無反応（電池が切れて反応しない状態）」状況にありました。
- 「連動機能」、「スマートフォンとの連携機能」、「照明機能」といった付加機能を求める声が多くを占めており、安心して安全性が高く、より便利な機能を求めていることが分かりました。